



あ く つ なおとし

◆事務部長就任のご挨拶 阿久津 直利

この度、平成27年4月1日付けで、昨年3月の開院から第2代目の事務部長として、思いも掛けぬ大役を仰せつかり、前任である法人の人事部長から一転して病院の舵取りのお手伝いをさせていただくこととなりました。初代の荻原事務部長に敷いていただいたレールを踏み外すことなく、より一層の精進により、不惜身命の覚悟で臨むつもりであります。が、なにぶん凡庸な若輩者でありますため、皆様の支えなくしては操船もままなりません。何とぞ多大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



さて、江東豊洲病院は414床での運用を目指しておりますが、現時点で許可されている病床300床のうち一般病棟として164床を運用してまいりました。手術件数、紹介患者数、救急搬送患者数などが順調に増加しており、一般病棟はほぼ満床であります。副院長をはじめとするベッドコントロールチームによる適切な退院調整による効果で効率的な運用をしてまいりましたが、患者数の増加には追いつけないのが事実であります。打開策として本年6月末を目途に、こどもセンターなどの一部病床を一時的に一般病床に付け替え、8階A病棟41床を開棟し運用を開始する予定です。とはいえ「女性とこどもに優しい病院」であるとのコンセプトは堅持しなければなりません。こどもセンター、周産期センター、NICUの運用が今後のカギとなることは言うまでもありません。緻密なベッドコントロールによりきめ細やかな患者対応をしていく体制作りが急務と思っております。



昭和大学江東豊洲病院

第14号のトピックス

- ・ 就任挨拶
- 阿久津事務部長 —
- ・ 診療科紹介
- 整形外科 —
- ・ 部門紹介
- NICU —

開院して1年が経過し、各種業務も落ち着きが出てきた様に感じますが、許可病床を増加していただけない中、既存の病床で収支のバランスを取っていくことは至難の業であります。強みである退院調整による効率的な運用継続はもとより、思い切った病院経営戦略が不可欠であります。無駄な支出を極力抑え収支改善につとめますが、診療や手術、医療安全、感染対策にかかる必要な機械器具は揃えていかなければなりません。

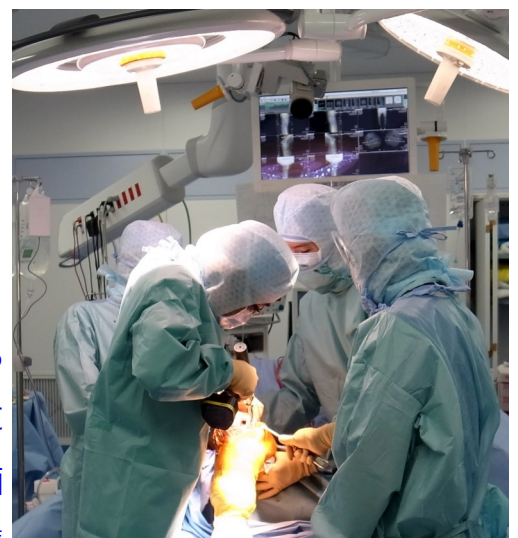
昭和大学の目標は良い医療人の育成にあります。その附属病院である当院も同じ目標に向かっておりますが、より身近な目標は「患者さんに元の生活に戻っていただく」ことでもあります。病気を治すには直接的であれ間接的であれ、全ての病院スタッフが一人一人の患者さんと何らかの携わりをもっております。何よりこの携わり方によって「この病院があつてよかった」と思ってもらえるような病院をつくることが重要だと思っております。そして昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」の校是のもと全員が仕事に誇りを持ち続け、患者さんに優しい病院として、日本中で一番たくさんの「ありがとう」を集めて行きたいと思っております。これらの課題を病院長、副院長はもとより病院スタッフの皆様とともに一致団結して実現していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

とみ た かずなり

◆診療科紹介 整形外科 富田 一誠

我々整形外科は、約32年間昭和大学附属豊洲病院整形外科として、長くこの地域で診療活動をして参りました。閉院間際には、稼働ベットの削減や外来診療の縮小などにおいて、近隣の医療施設、患者さんに大変ご迷惑をおかけしてしまいました。この場をお借りして心からお詫びいたします。

江東豊洲病院の開院当初には、折角ご紹介頂いたにもかかわらず、稼働ベットや医療資源の問題で再びご迷惑をおかけすることになり、大変心苦しく思っておりました。また、厚生労働省の医療計画に基づいた急性期病院としての役目を担うために、外来・入院治療の対象疾患と診療期間の考え方が著しく変化しました。私たちは、今後も変わらず、この地域の医療に貢献できるよう、日々努力して参りますので、どうかご理解を頂けますようお願い致します。



我々整形外科は、10人の医師が、大学附属病院としての**専門的医療**の提供と

地域医療としての**二次救急医療**の応需を基本方針として、日々全力で診療活動に従事します。

患者さんの活動性、生活スタイルに応じた治療方針を元に、最小侵襲治療と急性期リハビリで、早期の社会・スポーツ復帰を目指します。医療機関よりご紹介頂きました患者さんは、丁寧に診察し、適切な検査を基に確実な診断を行い、方針が決定し、手術後または治療が安定しましたら近隣の医療機関へ再度ご紹介致します。最終的には、患者さんが笑顔で病院から帰れるように、我々全員の力を結集して全力でサポート致します。



整形外科医師

特に下記の専門外来と救急医療に力を入れております。また、人工関節手術、脊椎手術、上肢下肢手術で、痛みなく、手術翌日より日常生活が再開できる究極の目標に向け挑戦しております。どうかよろしくお願い致します。

【初診外来】 8:30~12:00 : 紹介患者

月：星野、火：佐藤、水：富田、木：吉川、金：鈴木・村上、土・日・祝日：交代制

【専門外来】 14:00~16:30 (初再診)

スポーツ (月曜日：富田、火曜日：佐藤)、**脊椎** (月曜日、第1・3水曜日：星野)、**股関節** (火曜日：吉川)、**膝** (第1・3木曜日：佐藤)、**肩肘** (第1・3木曜日：鈴木)、**手肘** (第2・4・5水曜日：富田)、**肩** (第2金曜日：筒井、富田)、**こども** (第2木曜日：村上、第4・5木曜日：吉川)、**骨粗鬆症** (第2火曜日：永井)

【救急体制】 08:30~17:00 救急当番医、医療連携医

17:00~翌08:30 当番制当直とオンコール体制

さいとう ゆきえ

◆部門紹介 NICU 齋藤 有希江

NICUは、早産・低出生体重児や正期産疾病新生児を対象とした部門です。

新生児期は一生の中で最も目覚ましい成長発達を遂げる時であるため、NICUは治療の場であると同時に成長発達の間であり、新たな家族関係をスタートさせる場でもあります。

必要な治療を受けられるよう処置の介助や調整を行なうとともに、安全性・正確性・根拠性・倫理性・快適性を考慮した看護を行えるよう、取り組んでいます。

また、治療的環境下でも1人1人の新生児がその子なりの成長発達を遂げていけるよう、多職種との協働はもちろん、ご両親も含めたチーム医療を目指しています。

現在は、在胎30週以上・出生体重1500g以上の新生児を入院対象としており、現在9床で運営しています。

今後は、地域周産期母子医療センターの認定を視野に入れ、徐々に週数や体重の引き下げを行い、よりハイリスクな新生児を対象としていく予定です。

当院の基本方針のひとつである、「女性と子どもにやさしい病院」に魅かれ、今年も多くの新卒・既卒者が仲間に加わり、看護スタッフは24名になりました。

多職種と協働しながら、NICUに入院したすべての新生児とご家族にとって優しい看護を目指していきますので、これからもよろしくお願い致します。



NICUスタッフ
(2列目一番右 齋藤係長)

あおき けいいちろう

編集後記 青木 啓一郎

新入職員が入り、早二ヶ月が経ちました。本当に時間が経つのは早いものですね。どの部署においても、新人に仕事を振れる時期になってきたかと思います。私が仕事をする上で肝に命じていることがあります。それは「人の振り見て我が振り直せ」です。このことわざのように常に、人のいいところを取り入れる思考を持つことが大事であると思っています。これは仕事だけでなく、プライベートであっても同じだと思います。相手のいいところをみて、自分のことを見つめ直すのもいいことだと思います。新入職員も入りましたので、これから更に昭和大学江東豊洲病院を盛り上げていきましょう。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital